

**製品名: RAGE ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86561**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:43 kDa; Observed MW:43 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RAGE
別名	RAGE
遺伝子ID	11596
SwissProt ID	Q62151
免疫原	マウス RAGE の組み換えタンパク質

**背景**

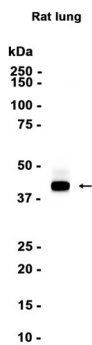
終末糖化産物 (AGE) の相互作用を媒介します。AGE は非酵素的に糖化されたタンパク質であり、加齢に伴い血管組織に蓄積し、糖

尿病ではその蓄積速度が加速します。動脈硬化などの病態、特に糖尿病の合併症において、急性および慢性の血管炎症の媒介因子として作用します。AGE/RAGE シグナル伝達は、2 型糖尿病における TNF- $\alpha$  の産生/発現、酸化ストレス、および内皮機能不全の制御において重要な役割を果たします。内皮、単核食細胞、およびリンパ球上の S100A12 との相互作用は、細胞活性化を引き起こし、主要な炎症誘発性メディエーターを生成します。心筋梗塞後の S100B との相互作用は、ERK1/2 および p53/TP53 シグナル伝達を活性化することにより、心筋細胞のアポトーシスに關与している可能性があります。オリゴヌクレオチドにも結合します。アミロイド  $\beta$  ペプチドの受容体。

## 研究分野

-

## 画像データ



RAGE ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してラットの肺組織抽出物をウェスタンブロット分析しました。